

ラグビー女子日本代表主将 南選手 故郷で活躍誓う 筑紫野市役所を訪問



高校時代まで過ごした筑紫野市の藤田陽三市長（左）から激励の花束を贈られ、笑顔を見せる南早紀選手（右）

筑紫野市出身で、ラグビー15人制の女子日本代表（サクラファイフティーン）でキャプテンを務める南早紀選手（23）が19日、同市役所を訪れ、藤田陽三市長にキャプテン就任を報告した。同市の筑紫高時代に男

子に交じってラグビーに励んだという南選手は、世界での活躍を誓った。

南選手は天拝小から二日市中、筑紫高と筑紫野市内の学校に通った。ラグビーは3歳の時、2人の兄に影響されて始めた。中学時代はラグビーと柔道をし、筑紫高に入って初の女子選手としてラグビー部に入部。男子と一緒に汗を流した。

高校時代に7人制ラグビーの国際大会「香港女子セ

ブンズ」に参加する女子日本選抜に選ばれ、日本体育大入学後は2015年のアジアチャンピオンシップに15人制の日本代表として出場。今年7月のオーストラリア代表戦で、日本のキャプテンを務めた。

「自分は負けず嫌いで、高校時代に男子に負けるものかと練習したことが今、生きています」と南選手。市長から「今後の目標は？」と聞かれると、「来年のワールドカップ予選に勝ち、2021年のニュージーランドでの大会でベスト7以上に入ることです」ときっぱり。（南里義則）